

AV情報スクランブル

Audio Visual Information

7月 Scramble

主要記事

2000年教育映像祭「優秀映像教材選奨」に201作品が参加
「第36回教育の近代化展」4日間で400,600人が来場
MMCA「人材育成型コンテンツ制作事業」を公募
国立教育会館「著作権フリー画像」を試行的に提供

東京教育工学研究会「第31回教育工学研究セミナー・全国大会」
メディア教育開発センター「教材研究ワークショップ メディア教育入門」
2000年度「日本教育工学会・夏の合宿研究会」
「第38回日本産業映画・ビデオコンクール」入賞作品

協会情報

二〇〇〇年教育映像祭「優秀映像教材選奨」に二〇一作品が参加
日本視聴覚教育協会では、毎年教育映画、ビデオ、スライド、コンピュータソフトウェア(CD ROM)の映像教材の製作振興と利用の向上進展を図る目的で、標記選奨を開催している。今年度の部門別参加作品数は次のとおり決まった。()内は前年。

映画の部 一七社・四三作品
学校教育部門 一三作品(一〇)
小学校向け 八作品
中学校向け 三作品
高等学校向け 二作品
社会教育部門 一三作品(一一)
家庭生活 一作品
市民生活 一二作品
職能教育部門 三作品(三)
児童劇・動画部門六作品(四)
児童劇 二作品
動画 四作品
教養部門 八作品(七)
ビデオの部スライドを含む)
三社・一三八作品
学校教育部門 六四作品(五八)
小学校向け 三一作品

中学校向け 一八作品
高等学校向け 一五作品
社会教育部門 三〇作品(四七)
家庭生活 八作品
市民生活 二二作品
職能教育部門 二四作品(四〇)
教養部門 二〇作品(二一)
CD ROMの部 一二社・二〇作品
学校教育部門 一六作品(三一)
小学校向け 一二作品
中学校向け 三作品
高等学校向け 一作品
社会・職能・教養部門 四作品

「二〇〇〇教育コミュニケーションズ IN JAPAN 第三六回教育の近代化展」(ビジネスشوウと併催)「四日間で四〇〇、六〇〇人が来場」
日本視聴覚教育協会・日本視聴覚教員連合会主催による標記展示会は、「ビジネスشوウ2000 TOKYO」の中に併催して、五月二三日(火)～二六日(金)にかけて東京・有明の「ビッグサイト」で開催された。
例年、同展示会の目玉となっている「ビデオプロジェクター」の競

『メディア教育』の実践的研究
調査研究報告』放送番組向上協議
会編、同協議会、二〇〇〇年三月
刊、A四判、六二頁

上記協議会での(財)放送文化
基金の助成・援助を受けて実施し
た研究の報告書である。特に実践
的ということを意識したところに
特徴がある。内容は無藤隆氏らに
よる1『メディア教育』の意義』と、
2『メディアリテラシー教育のカリ
キュラム実践』として駒谷真美氏、
落合文江氏による二報告、3『子ど
もの映像制作と放送局』として村
野井均氏・小西由紀子氏の論文が
ある。このうちで駒谷論文はメデ
ィア・リテラシー教育のカリキュ
ラムを作成し、実践した結果をま
とめた研究である。東京と福井の
小学生を対象として、子どもたち
の獲得しているメディア・リテラ
シーの調査(調査1)と、作成した
カリキュラムによる授業(四時間)
の実践の効果を事前・事後に調査
(調査2)から考察した。(調査1)
ではテレビについての小学校五年
生の知識・理解は表面的・断片的
であり、現実と空想の理解は未消



化であることがわかった。(調査
2)では、授業に参加した子ども
はボジティブに評価し、番組のタ
イプ・登場人物のパターン・テレ
ビが映る仕組みについての理解が
向上した。子どもたちにメディア
の受け手から作り手への意識変化
がみられた。ここに、批判的視聴
能力「メディア・リテラシー」とす
る考え方から離れて、日本の文
化・教育に合ったカリキュラムの
考え方に立つカリキュラム構成が
実践できる事例を示し得た、とす
る。村野井氏らの論文は福井市内の
小学五年生にビデオレター「福井
の食」年末年始版「制作がテー
マ。各学級でグループごとにすべ
ての作業を担当した結果、カメラ
の位置、映し方、番組のねらいに
注目するようになったという。N
HK福井は「発信マイスクール」
をはじめた。
(高桑 康雄)



写」が二 台の参加を得て開催さ
れ、参加機種のパンフレットを冊
子にまとめたものが配布された。
期間中四日間の来場者の内訳は次
の通り。

一三日(火) 六六、八〇〇人
一四日(水) 九二、一〇〇人
一五日(木) 一〇四、九〇〇人
一六日(金) 一三六、八〇〇人
合計四〇〇、六〇〇人、うち海
外来場者六、六三八人。

A V 情報

M M C A「人材育成型コンテン

ツ制作事業」を公募

(財)マルチメディアコンテン
ツ振興協会(M M C A)が、今年
度より実施する標記事業は、人材
発掘を求めるコンテンツ制作企業
と、先進的なコンテンツ・アイデ
アの実現をめざす学生・学校、異
業種企業、フリーランス・クリエ
ーターなどの人材が協力して行う
「共同制作プロジェクト」による
「コンテンツ制作事業計画」を公
募し、審査を経て、採択された計
画に資金提供の支援を行う。

1・応募の形態は下記の二種類

デジタルコンテンツ制作企業
が、企業外の人材を自ら発掘・活
用して共同制作プロジェクトを形
成、コンテンツ制作事業計画を立
案して応募する場合。

デジタルコンテンツ制作企業
と人材が、各々、提案するリソー
スを事務局より相互に情報提供さ
れ、事務局が開催する「交流会」
(七月下旬・東京)等を通じて共
同制作プロジェクトを形成、コン
テンツ制作事業計画を立案して応
募する場合。

2・契約条件

請負方式とする。コンテンツ制

生涯学習審議会「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について 情報化で広がる生涯学習の展望」(中間まとめ)

生涯学習の振興に資するための施策に関する重要事項を幅広く審議する、文部省生涯学習審議会(会長・吉川弘之放送大学長)は、平成十一年一月一七日、文部大臣より「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について」の諮問を受け、六月一日、標記中間まとめを発表した。

A 四判・カラーの六〇頁で、CGグラフィックスの多用、四コマ漫画も採用し、親しみやすくわかりやすいよう工夫されて編集されている。内容は以下の通り。

1. 生涯学習における情報化の現状と展望
生涯学習における情報化の必要性と現状 / 情報化で広がる生涯学習の新たな可能性の展望
2. 新しい情報・コミュニケーション技術



を活用した生涯学習施策の基本的方向 生涯学習に関する人材・機関・施設等に求められる役割・機能 / 国際的連携による生涯学習施策の推進

3. 当面推進すべき施策 情報リテラシーに関する学習機会や研修体制の整備 / 生涯学習関連施設の情報化の推進 / インターネット利用環境の整備について / 生涯学習用コンテンツの開発の必要性 / 学習機会に関するデータベースの整備等 / 大学等の公開講座を公民館等を通じて広く全国に提供するシステムの構築 / 大学院レベルの学習機会などの充実 / 放送大学の拡充

作については、以下の順序で制作を実施する。優れた計画に対して、コンテンツ制作を採択し、契約により制作の請負を行う。被採択者はコンテンツ制作と納品を行う。

3. 応募に関する問い合わせ
〒一〇五 〇〇〇一 東京都港区虎ノ門一 二一 八 秀和第三虎ノ門ビル八階 (財)マルチメディアコンテンツ振興協会 マルチメディアコンテンツ制作支援事業推進室 <http://www.rimca.or.jp>
国立教育会館「著作権フリー画像」を試行的に提供

教育情報のデータベースやソフトウェアライブラリー等、教育に関するさまざまな情報を提供している国立教育会館「ソフトウェアライブラリー総合センター」は、五月より、授業での活用に限り著作権フリーの教材画像(試行版)の提供を開始した(<http://www.naacc.go.jp/gzou/index.htm>)。

この教材画像データベースは、植物、動物、風景等の画像データ(JPEG形式)が、国語、社会、理科、道徳、美術、総合的な学習と教科別になっており、全部で一〇〇画像が収められている(画像

の詳細: JPEG_1,524x1,074ピクセル 70(598KB)。

問い合わせ「ソフトウェアライブラリー総合センター」電話〇三三五八〇 六二九一

研究会情報

東京教育工学研究会「第三二回教育工学研究会セミナー・全国大会」東京教育工学研究会では、『体験知』を生かす『総合的な学習』への挑戦』をテーマに次の要領でセミナーを開催する。

1. 期日
八月三日(木)・四日(金)
2. 会場
アルカディア市ヶ谷(東京都新宿区市ヶ谷)
3. 内容

基調講話「環境教育からみた『総合的な学習』の方向」佐島群巳氏(東京学芸大学名誉教授)、「情報教育の捉え方と『総合的な学習』の位置」古藤泰弘氏(川村学園女子大学教授)

セミナー(定員各コース三五名)「Aコース」体験知と『総合的な学習』(基本コース)、Bコース「情報体験と『総合的な学習』」

ドキュメンタリービデオ

『岩波映像(株)』「たのしい授業」

「子どもがよろこぶ授業・前編」

(五十分)

「先生がよろこぶ教室・後編」

(五十分)

この作品は、中学校理科の仮説実験授業「自由電子が見えたなら」と題して行われた授業記録を中心として収録されたもの。

生徒に「一円玉は電気を通すか通さないか」の問題を提示し、それを予想させ、なぜそう予想したのかを討論してから、実際に目の前で実験が行われる。これを十円玉、千円札、割り箸、茶碗…などで行い、教科書なしで進めていく。子どもたちに興味を持たせつつ考えさせ、自由な発想を引き出し、迷いや間違いも受けとめながら行う。生徒たちが、リラックスして授業に集中しているのが印象的である。他の授業では、勉強が苦手と見られる子ども、優等生、控えめな子、目立ちたがりな子も、楽しい思いをいだいて参加してくれることが、何よりも嬉しいとの先生の思いが伝わってくる。



また中学生の時に仮説実験授業を受けて教師になった先生、二年前の教え子、父母のインタビューも収められている。

仮説実験授業とは、「子どもたちが自身が科学の基本的な概念や法則を発見して身に付けられるようにする授業」として、問題・予想・討論・実験の過程を中心とした一つの特色ある授業方法を取り、学習意欲を高めるためにはどんな授業書があるか、それを使って授業するにはどうしたらよいかを知ることが大切であると板倉聖宣氏(国立教育研究所名譽所員)が提唱しているもの。

併せて解説・台本「たのしい授業を読む」(仮説社・五〇〇円税別)も参考にした。(斉藤育三郎) 価格 各編九、五〇〇円(税別) 問い合わせ 岩波映像株式会社 電話〇三 五六八九 二六〇一

(情報コース)、Cコース「環境体験と総合的な学習」(環境コース)

シンポジウム『総合的な学習』と教科学習との関連をどう図るか』司会・小池榮一氏(神奈川県大学教授)他

4・参加費

一五、〇〇〇円

5・問い合わせ

〒二七〇 一一三八 千葉県我孫子市下ケ戸一三三 川村学園

女子大学教育学部情報教育学科

古藤研究室内 電話〇四七一 八

三九二三四

メディア教育開発センター「教材研究ワークショップ」メディア教育入門」

メディア教育開発センターは、大学等の授業で用いることのできるすぐれたメディア教材を、実際に体験する形で研究する標記ワークショップを開催する。今回は、イギリスの公開大学(OU)と英国映画機関(BFI)が共同で開発した「メディア教育入門」(Media Education: An Introduction, 1992)を用いる。

これは、メディア(特にテレビや映画などのマスメディア)につ

いて、青少年が批判的に受容することをねらうカリキュラムのための、教師教育用の教材。大学等で、マスメディアコミュニケーション研究、メディア研究、あるいは教師教育(社会、国語、英語、美術等)担当者、メディア教育に関心のある方が対象。

1・日時 九月六日(水) 〇:四五〜一六

〇〇

2・場所

メディア教育開発センター(千葉県美浜区)

3・研修内容

「教材パッケージの概要」イギリスにおける「メディア教育」の概念と、OU/BFIの教材『メディア教育入門』の構成を概観 「グループ実習」小グループに分かれて『メディア教育入門』の「二のセッション」(「テキスト分析」を含む)を、実際に課題を体験する形で吟味する。

「報告と討論」グループごとに実習の成果を報告し、それをもとに、教材の意義と利用上の課題について討論する。

4・申し込み

〒二六一〇〇一四 千葉市美
浜区若葉二 一丁目メディア教育
開発センター 事業部ネットワー
ク課研修企画係 鈴木・山田 電
話〇四三二九八三三〇九 E
メール nsuzuki@nime.ac.jp 受講
案内 [http://www.nime.ac.jp/
sega/kenshu/mediad.html](http://www.nime.ac.jp/~sega/kenshu/mediad.html)

学会情報

二〇〇〇年度「日本教育工学
会・夏の合宿研究会」

日本教育工学会では、「総合的
な学習と情報活用の実践力育成の
ための授業づくり」をテーマに、
九月二日(土)・三日(日)の二日
間、沖縄県琉球大学において次の
要領で合宿研究会を開催する。

すべての教室からインターネット
トアクセスできる環境づくりのな
かで、児童生徒に何を体験させ、
どのような学力を育成すればいい
のか、授業づくりのアイデアや学
力形成と評価の問題を、総合的な
学習の視点から考える。

1・会場

琉球大学教育学部附属教育実践
総合センター(沖縄県中頭郡、ホ
ームページ：[http://ec4.edu.u-](http://ec4.edu.u-ryuky.ac.jp/)

[ryuky.ac.jp/](http://ec4.edu.u-ryuky.ac.jp/))

2・日程・内容

九月二日

一四：三〇パネルディスカッシ
ョン「情報活用の実践力を育てる
授業づくりと評価」ノ一六：四五
「情報教育の実践と諸問題」沖縄
の事例発表」ノ一八：三〇懇親会、
ナイトセッション

九月三日

一〇：〇〇「情報教育の問題解
決 フリーディスカッション」ノ
一一：二〇講演「総合的な学習の
時間と情報活用の実践力の育成」
永野和男氏(聖心女子大学)

3・参加費

一、〇〇〇円(資料代を含む)
懇親会参加者は別途五〇〇〇円。

4・申込先・問い合わせ先

〒九〇三〇二二三 沖縄県中
頭郡西原町字千原一番地 琉球大
学教育学部附属教育実践総合セン
ター・担当：米盛徳市、電話〇九
八八九五 八四四七

コンクール情報

「第三八回日本産業映画・ビデ
オコンクール」入賞作品

(社)日本産業映画協議会主催

による標記コンクールの入賞作品
が次のように決まった。

日本産業映画・ビデオ大賞「明

治建築をつくった人びと コンド
ル先生と四人の弟子」一六ミリ、
五四分、日本映画新社

文部大臣賞「大地の彫刻 モ工
レ沼公園」ビデオ、四〇分、北海
道映像記録

通商産業大臣賞「電子波で見る
量子の世界 外村 彰のフランク
リン賞」ビデオ、一九分、イメ
ージサイエンス

経済団体連合会会長賞「1 +
1 + 1 = 11 ナノ粒子・ナノワ
イヤーに潜む謎」ビデオ、二七
分、イメージサイエンス

日本産業映画・ビデオ賞「サイ
クロトロン物語 理研の核物理研
究」ビデオ、三〇分、山陽映
画「木挽(林 以一) 江東区
の伝統工芸」一六ミリ、一七分
毎日映画社「2000パリ」ダ
カール・カイロラーリ 三菱パジ
エロー、二、三位独占(市販車改
造部門)「ビデオ、一五分、東
京映像社「ケアマネージメント
と介護サービス計画 介護支援専
門員の活躍」ビデオ、三七分、

東京シネ・ビデオ「皮膚本来の
防御機構をとり戻すために アト
ピックドライスキンの解明」ビ
デオ、二三分、花王情報作成セン
ター、他三作品が入賞。また奨励
賞には二一作品が入賞した。

短 信

全国高等学校視聴覚教育研究協
議会は、五月二四日開催の理事會
で、会長の中田道夫氏が退任、後
任会長に井田良克氏(東京都立大
森東高等学校長)が就任した。

(財)能力開発工学センターは、
会長・常務理事が三月の理事會で
新任された。会長岩井龍也氏(九
州大学名誉教授)、常務理事井手
勝氏(株)サンネクスト顧問)。

(社)映像文化製作者連盟の山本
克己氏は、五月末日、同連盟専務
理事を退任し、連盟事務局の職も
退任。今後は顧問として連盟を支援

岐阜県各務原市視聴覚センター
は、四月より名称を各務原市総合
教育メディアセンターに変更した。
(株)イメージサイエンスは、下
記住所に移転した。〒一〇六〇
〇三一 東京都港区西麻布一七
九 綿工連西麻布ビル二階